

## ティーチング・ポートフォリオ

戸澤純子

(記入日： 2019 年 9 月 20 日)

**1 教育の責任** (何をやっているか：担当科目)、観光心理学 (1年から3年、後期、選択必修科目、2単位)、観光文化実践Ⅲ (2年から3年、前期、選択必修科目、2単位)、基礎ゼミナール (1年、前期、必修科目、2単位)、ライフ・プランニング (1年から2年、後期、共通教育選択科目、2単位) など

**2 理念** (なぜやっているか：教育目標)

学ぶことは自分自身にも、周囲の人たちにも大きな影響がある。それは単に資格取得や就職などの直接的な活動に直結する以上に、重要な意味があることを気づいてほしいと考えている。大学時代に学ぶ習慣を身につけ、主体的に問題解決を図る力を身につける機会を提供したい。

**3 方法** (どのようにやっているか：実践の工夫)

観光文化実践Ⅲにおいては、教室での学びに加えて、現地に赴き教室での学びを自ら体験する機会を設けた。観光心理学においては、理論の紹介の際にはできる限り実際の具体例を多く挙げて、学生たちの日常的な行動と関連付け、自分の問題として様々な事象について考えられるように工夫した。基礎ゼミナールやライフ・プランニングにおいては、学生たちの主体的な学びとして、グループディスカッションや、自分で調べてきた問題についてプレゼンテーションする機会を多く設けた。

**4 成果** (どうだったか：結果と評価)

観光文化実践Ⅲにおいては、学生たちの体験を授業時間外にレポートとしてまとめ、問題に主体的に取り組む経験をした (エビデンス1)。観光心理学においては、授業中の質問やリアクションペーパーの内容から、自分の問題として事象を理解することができた (エビデンス2)。基礎ゼミナールやライフ・プランニングにおいては、指定図書をはじめとする様々な資料を用いて、発表資料を作成できた (エビデンス3)。ただし一部の学生は資料を読みこなすことが十分とは言えず、教育的な指導が十分とは認められなかった。

**5 今後の目標** (これからどうするか)

様々な授業を振り返り、学生たちの学ぶ意欲や資料を読み解く能力、コミュニケーション能力をこれまで以上に向上させたい。これは一度の授業で容易く達成できる問題ではなく、時間を要する。このため、これまで以上に客観的な資料を基にしたグループディスカッション、個人の考えをプレゼンテーションする機会を作り、学生指導に当たる予定である。またこれまで事前事後学修の指導が十分とは言えなかったため、この点に注意して指導に当たる。

**6 エビデンスとなるもの** (資料の種類などの名称)

- 1 課題レポート (非公開)
- 2 リアクションペーパー (非公開)
- 3 授業発表資料 (非公開)

## ティーチング・ポートフォリオ

小堀 貴亮

(記入日：令和元年 9 月 22 日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

担当科目は、観光文化学科対象の「観光文化総論 (1)」(1 年前期必修科目 2 単位)、「観光文化総論 (2)」(1 年後期必修科目 2 単位)、「観光の情報デザイン (1)」(前期選択必修科目 2 単位)、「観光の情報デザイン (2)」(後期選択必修科目 2 単位)、「観光文化実践Ⅳ」(後期選択必修科目 2 単位)、「旅行業務取扱管理者講座 (1)」(前期専門科目 2 単位・国家資格)、「旅行業務取扱管理者 (2)」(後期専門科目 2 単位・国家資格)、「観光文化専門演習 (1)」(3 年後期必修科目 2 単位)、「観光文化専門演習 (2)」(4 年後期必修科目 2 単位)、文学部史学科対象の「地理学概説 (1)」(前期教職科目 2 単位)、「地理学概説 (2)」(後期教職科目 2 単位)、「地誌学」(通年教職科目 4 単位) などである。

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

観光が新しい文化の創造や地域形成に与える影響について理解させるとともに、観光文化に関する基本的な知識を修得させることに努めている。また、国家資格である「旅行業務取扱管理者」の合格者を一人でも多く輩出することを目指している。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

世界各国や日本全国を対象とした「観光文化」に関する科目を主に担当しており、限られた時間内で膨大な知識(地名・位置・場所イメージ等)を覚えなくてはならないため、学生・教員双方が常に緊張感をもって集中力を維持させることを心がけている。方法としては、パワーポイント等、ビジュアル教材を駆使することにより、臨場感溢れる講義を創り上げることに日々努めている。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

結果的に、皆最後まで緊張感を保ち、私語や居眠りもほとんどなく真摯な態度で学習に取り組んでいたようである。また、学生側の意見をみると概ね授業を理解していただいたように思われる。

一方、計画していた事項を消化しきれず、若干偏った内容になってしまった。例えば、国家資格対応科目である「旅行業務取扱管理者講座」においては、北海道から開始して九州に至る国内観光地理の学習の中で、内容に若干の偏りが生じたことは今後の課題として残されている。また、マクロスケールにおける観光地理学習はある程度達成できたと考えるが、そのような中で、とりわけ地域性が豊かな地域を選定し、より詳細な地域観光文化の理解を深める機会も必要であったと反省する。

### 5 今後の目標 (これからどうするか)

本学に着任して 3 年目となり、本学学生の学力や性質について大凡の感覚を掴むことが出来たので、今後はより計画的に講義を進めていき、国内外の観光文化事象について万遍なく把握できるような教材作成・研究に取り組んでいきたいと考える。

### 6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

講義科目については、パワーポイントの教材に即したオリジナルのプリントを作成し、

配布している。また、国家資格に関する科目については以下のテキストを使用している。  
児山寛子『一発合格！国内旅行業務取扱管理者試験テキスト&問題集』ナツメ社。

## ティーチング・ポートフォリオ

丹治 朋子

(記入日：2019年9月22日)

### 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

観光概論（1）（2）、基礎ゼミナール、プレゼミナール、ホテル・マネジメント、コンシェルジュ論、ブライダル産業論、外食産業論、観光文化実践Ⅰ、観光文化実践Ⅸ、観光文化実践Ⅹ、観光文化専門演習（1）（2）、卒業研究演習、卒業研究など

### 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

主に観光系の科目を担当しているが、観光学は観光という現象を多くの方法論で解き明かす学問であり、また、現代の社会においてなくてはならない存在であり、理論を実際の社会や現場にて確認することが比較的容易にできる領域です。そこで、①現代観光の多様性を多角的に理解し（学際性）、②社会においてどのように必要とされているかを理解し、③理論を産学連携を通じて実践したり、現場研修やゲスト講師などによって深く理解するといったことに注力しております。また、④自分の考えを文章や口頭発表で表現する力の育成にも力を入れています。

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

- ① 特に観光概論と基礎ゼミナールでは、観光学の初学者である1年次前期の必修科目であり、観光の広がりを理解することにも力をいれています。そこで、新聞記事や実際に現場で働く人々に直接聞いた話などを授業の中に織り交ぜ、教科書にある抽象化された理論が現実社会において、どのように展開されているか、その中でどのような課題が発生しているかを解説しています。
- ② 観光が日本の政策の中でどのように扱われているか、地域経済活性化においてどのように重要な役割を果たしているかなどについて、各科目で折に触れて解説しています。
- ③ 理論が実際に業界の中でどのように実践されているかについて、各科目において、業界からのゲスト講師、現場見学（ブライダル産業論、コンシェルジュ論、観光文化実践Ⅰ（ホテルの仕事について学ぶ科目）等）を実施しています。また、観光文化実践Ⅹでは長期の観光業でのインターンシップを通じて、外からはなかなか見ることのできない業界の実情を学んでいます。さらに、観光文化実践Ⅰでは、現場の担当者と深い議論ができるように、現場担当者の講義を聞いたあとに、担当者との質疑応答の時間を長く取るなどしています。また、観光文化実践Ⅸという産学連携を実践する科目では、業界の抱える特性や悩みを理解した上で、産業界や地域とともに産学連携を推進し、この業界の現実的な課題について学んでいます。さらには、外食産業論、ホテルマネジメントなどのレジュメを配布する科目において、授業の冒頭に「今週の話題」を取り上げ、業界の最新の話題に触れる機会を作っております。

また、こうした外部の主体との交流においては、学生として（社会人として）どのように振る舞うべきかということも指導し、社会人基礎力を高めております。

- ④ ほとんどの学生が授業中の発言やレポート執筆に苦手意識を感じております。それを

克服するために、授業中に発言しやすい雰囲気を作り（教員が威圧的な態度を取らない、想定外の発言があっても否定をしない、ユーモアを交える、グループワークによって少人数で意見を述べる体験をさせる、一度文章にまとめてから発表する機会を作る、等）、学生が意見を述べることができるように支援しています。また、文章に関しては、基礎ゼミナール、プレゼミナール、観光文化専門演習（1）（2）、卒業研究演習といった、演習科目では徹底してレポート、小レポート、論文の添削指導を行い、全体で共有すべき事項については折に触れて文章の書き方を指導しております。

また、ほぼすべての授業でリアクションペーパーを用い、授業の最後 5 分程度でこの時間に学んだことを文章化する訓練を積んでおります。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

- ① 学生のリアクションペーパーでの反応をみると、「具体的な観光地での話や、仕事の裏話が面白かった」などのコメントが多いです。
- ② 当初は観光を宿泊旅行であるといったようにごく一部で理解している学生が多いが、授業の中で繰り返し話す中で、日帰り旅行であっても日常生活圏を離れてまた戻ってくる行動であれば観光であることを理解するようになっていく。授業での発言などにそのことが現れています。
- ③ 学生のリアクションペーパーや、ゲスト講師などのあった時にその都度書かせているコメントペーパーによると、よりリアルな現状について理解できているとのコメントがある。また、産学連携や長期インターンシップを通じて、就職活動に有利に働いているケースも見られます。
- ④ 繰り返し指導により、少しずつではありますが意見の表現の仕方や文章の書き方が改善されているように感じております。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

今後もこの方法で指導を続けていきたいと考えております。また、今年度からはレポートの評価にルーブリックを導入し、学生個人に採点結果を返却しております。これをできる限りの科目で推進していきたいと存じます。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

成果の確認は、主に授業中の学生との質疑応答などのやりとりで確認をしており、形に残るものがあまりありませんが、

・リアクションペーパー（各科目で A4 サイズ 1 枚のものを用意しています。15 回の授業で毎回冒頭に配布し、授業の最後に学生のコメントを書かせて回収しています。あわせて、遅刻者の管理も行なっています。）

・授業レジュメ（外食産業論、ホテル・マネジメント、ブライダル産業論では、A3 サイズ 1 枚を配布し、その冒頭に必ず「今週の話題」という項目を置いています。）

・2017 年に卒業した石井悠さんは、藤田観光との産学連携において初代のリーダーを務めた学生です。家庭の事情で新卒すぐではありませんでしたが、2018 年に藤田観光へ正社員として就職しております。これは、産学連携での取り組みが評価されてのものであり

ます。

といったように、一部、確認できるものがあります。

以上

## ティーチング・ポートフォリオ

種村 聡子

(記入日：2019年 9月 22日)

### 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

観光文化実践Ⅸ（2年前期選択必修科目2単位）、観光経営学（2年前期選択必修科目2単位）、ホスピタリティ入門（1、2年前期選択必修科目2単位）、観光マーケティング（2年前期選択必修科目2単位）、キャリア・プランニングⅢ(2)（2年後期選択科目2単位）、キャリア・プランニングⅣ（1）（2）（3年前後期選択科目2単位）、観光文化専門演習（1）（3年前後期必修科目2単位）など

### 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

私の本学での役割は、学生が観光関連産業や企業活動を多面的に捉え、理解することを支援することである。さらに、学生が自ら考え・調べ・行動することで汎用的な力を身につけ、大学卒業後にも社会で活躍する人材となるよう、動機づけを促したいと考えている。

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

学生が主体的に学習を進める機会を作るために、次のことに取り組んでいる。

#### ①リアクションペーパー

授業時に記入するリアクションペーパーは、独自のものを使用している。4段階（4理解できた・3どちらかといえば理解できた・2どちらかといえば理解できなかった・1理解できなかった）で理解度を確認している。また、本日の感想・課題の項目以外に授業に対する感想・要望・質問の項目を設定することで、学生の考えを引き出そうと試みた。学生の感想・要望・質問に対しては、教員のコメントを記入したうえで返却している。

#### ②産学連携（ツアーモデルプラン作成）授業の展開

実社会で働く方々の前での発表する機会をできるだけ多く作っている。航空会社や旅行会社担当者への発表を実施し、それに対するアドバイスをもらうことで、学生が日々学んでいることが、実社会でどのように役に立っているのかを理解するよう促している。そのために、学生と企業間とのやりとり（企業訪問、戦略会議への出席、SNS）を実施している。

#### ③社会人基礎力を指標に自己の成長を測定

グループワークや産学連携を通し、汎用的なスキルが伸びたかどうかについて、社会人基礎力を指標に、学期中間と期末にアンケートおよび振り返りシートの記入を取り入れている。

### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

#### ①リアクションペーパー（エビデンス1）

理解度は、ほぼ4段階中、3以上であった。教員からのコメントを記入することで、翌週授業でのリアクションペーパーの質問や感想の記入量が増えた。

#### ②産学連携（ツアーモデルプラン作成）授業の展開

企業ホームページで授業や活動の様子を公開した（エビデンス2）。

#### ③社会人基礎力を指標に自己の成長を測定

授業の中間と期末に社会人基礎力を指標にして、社会人基礎力のどの項目が伸びたのかを測定した。結果、授業全体的では、働きかけ力、発信力、傾聴力、柔軟性の要素が伸びていた（エビデンス 3）。

## 5 今後の目標（これからどうするか）

学生が作成した資料のファイルサイズが大きく、タイミングよくクラス内で共有することができなかった。今後は、クラウドを上手く活用していきたい。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1 リアクションペーパー

2 企業ホームページで公開

エアトリホームページ <https://japantour.airtrip.jp/special/kgwusjo/>

SPREING JAPAN ホームページ

[https://pages.ch.com/jp/act/kawamura022019?intcmp=home\\_kawamura02\\_20190809\\_homeflash6](https://pages.ch.com/jp/act/kawamura022019?intcmp=home_kawamura02_20190809_homeflash6)

90809\_homeflash6

3 社会人基礎力振返りシート（非公開）

## ティーチング・ポートフォリオ

川村学園女子大学生活創造学部  
観光文化学科 中山 穂孝

(記入日：2019年9月24日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

世界遺産(1)(2～3年次前期選択必修科目 2単位)、観光地計画論(2～4年次前期科目選択必修科目 2単位)、インバウンド・ツーリズム論(1～3年次前期科目選択必修科目 2単位)、観光文化日本(1)(1年次前期必修科目 2単位)、基礎ゼミナール(1年次前期必修科目 2単位)、観光文化専門演習(1)(3年次前期必修科目 2単位)、卒業研究演習(4年次通年必修科目 4単位)

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

講義科目は、観光の基礎的な知識を固めつつ、日本及び世界で発生している観光の特徴や問題点を考察できる力を養うことを目標としている。観光地や観光資源などの特徴をただ暗記するだけではなく、その特徴の背景や形成過程を含めた広い視点で観光を捉える能力を身につけてもらいたい。演習科目では、講義科目で身に着けた観光に関する基礎的な知識や手法を活用しながら、自らテーマを確立し、独自の視点から主体的にレポートや卒業論文を完成させることを目標としている。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

学生が、観光に関する基礎的な知識を習得するために、視覚情報を豊富に使用した資料を作成し、講義を進めている。講義の最後にはリアクションペーパーを配布して、疑問点や感想を記入する時間をとっている(エビデンス 1)。そこで挙げられた疑問点は、次回講義の冒頭で説明している。また、講義科目で課す中間レポートは、採点后コメントを付けて返却し、学習効果の向上を目指している。

演習科目では、学生の自主性を重んじ、各自の興味・関心に沿った自由なテーマ設定を促している。レポートや卒業論文の作成方法などを適宜助言し、完成度の高いレポートや卒業論文の作成を目指している。

観光文化専門演習(1)や卒業研究演習では、レポートや卒業論文を作成する際、対象地を実際に自分の目で見て、考えるように指導をしている。講義や書籍では感じるができない地域の実情を肌で感じ、リアリティに溢れた文章を執筆できると考えている。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

講義科目は、中間レポートと筆記試験を実施し、知識の習得度や考察力を確認・評価した。筆記試験の結果から観光に関する基礎的な知識はおおむね習得

きた(エビデンス 2)。しかし、独自の視点からのレポート作成はまだまだ向上の余地が残されており、来年度の課題としたい(エビデンス 3)。

演習科目は、数回のレポートや演習内での発表内容によって評価した。レポートは徐々に文章作成能力の向上が見られ(エビデンス 3)、独自の視点を盛り込んだ発表もあり、有意義なものであった。

#### 5 今後の目標 (これからどうするか)

講義科目において、学生同士で相談・議論する機会を増やし、学習効果の向上を目指したい。また、講義時間外の事前事後学習を促すために、HP 上での資料の公開などを進めていきたい。

#### 6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

- (1) リアクションペーパー(非公開)
- (2) 筆記試験(非公開)
- (3) 各種レポート(非公開)

## ティーチング・ポートフォリオ

田中 実

(記入日： 2019年 9月 30日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

観光グローバル英語 I (2~4年前期選択必修科目 2単位)、観光グローバル英語 II (2~4年前期選択必修科目 2単位)、観光文化アジア (1) (1~4年前期選択必修科目 2単位)、観光文化アメリカ (1) (1~4年前期選択必修科目 2単位)、観光文化実践 VI (2~4年前期選択必修科目 2単位)、観光グローバル英語 II (2~4年後期選択必修科目 2単位)、観光グローバル英語 III (2~4年後期選択必修科目 2単位)、観光文化アジア (2) (1~4年後期選択必修科目 2単位)、観光文化アメリカ (2) (1~4年後期選択必修科目 2単位) など。

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

観光グローバル英語 I~III については、観光産業を目指す学生に観光に関わるさまざまな実用的英語を習得、習熟してもらうこと。観光文化アジア (1) (2) については、アジアのさまざまな国々の自然、文化、歴史、政治・経済、観光地の概要を学び、そうした国々について知識、理解を得ること。観光文化アメリカ (1) (2) については、アメリカの自然、文化、歴史、政治・経済、観光地の概要を学び、この国の基礎的な知識、理解を得ること。観光文化実践 VI については、実際に観光の現場を見ることで、「現場」の重要性、そして実体験の重要性を学ぶこと。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

### 5 今後の目標 (これからどうするか)

### 6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

